令和7年度　道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名［　米沢市立第七中学校　］

【研究の要約】
本研究では、自他を尊重し、主体的に未来を創る生徒の育成することを目標とし、特別の教科道徳および学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実に努めた。
成果としては、生徒が道徳的価値を「自分事」として捉え、自己を客観的に見つめることができるようになってきた点にある。学校環境適応感尺度「アセス」の分析では、単なる肯定感の維持にとどまらず、葛藤や慎重さを伴う道徳的判断力の向上と捉えた。また、外部講師の招聘や積極的な授業公開、地区内小学校との連携を通じ、教職員の指導力向上と義務教育９年間を見通した指導体制の構築においても進展が見られた。

１．事業の内容（具体的実践事例）

（１）自他の生命の尊重と畏敬の念の育成:「心と命の学習週間」等を軸に、教育活動全体で他者を思いやる心を育む。

（２）主体的な生き方の追求：未来に夢や希望を持ち、議論を通じてよりよい社会を共に創ろうとする主体的・対話的な態度を養う。

２．研究成果（〇）と課題（●）

〇「心と命の学習週間」等の取組を通じ、いのちの大切さを多面的・多角的に考えるよい機会となった。また、道徳科の授業では、自分事として「どう生きるか」を深く考え、他者との関わりの中で、議論する主体的な学びへと転換する契機となった。

〇校内授業研究会や外部講師（佐藤幸司先生）の招聘により、教員の発問の構成力とファシリテーション能力の向上に資することができた。生徒の心の揺れや、価値の葛藤を促す「多面的・多角的に考えを広げ深める道徳」について理解を深めることができた。

〇学会への派遣により全国の取組を参照することができ、全職員に共有することで授業づくりの幅を広げることができたことは大きな収穫である。

〇校内授業研や校内研修会に地区内小学校教員に積極的に参加いただいた。小中９年間を見通した道徳教育の連続性の重要性ついて共通理解を図ることができた。

●授業で得た「気づき」を、学校行事、部活動、生徒会活動等の日常生活での具体的な行動に繋げ、道徳的価値が実践される場面を意図的に創出する。

●道徳科を核としつつ、各教科や総合的な学習の時間と関連させた「道徳教育」を充実させ、生徒の多層的な成長を促す体制を整える。

●指定期間終了後も、授業改善のサイクル（ＰＤＣＡ）を定着させる。若手教員への指導ノウハウの継承を含め、校内研究の質を維持・向上させる仕組み作りが必要である。

＜参考資料＞

１．『心と命の学習習慣』～生命の大切さを実感するクロスカリキュラムの実践～

（１）目標

本校の経営の重点である「こころと命の学習」は生命を尊重する精神に基づいて、自他ともに大切に思う気持ちを育て、いのちをつなぐ「性＝生命」とたくましく生き抜く力「生＝生き方」について考えることを目的とする。

（２）全校一斉講話

①１学年：ネット社会とともに「メディアコントロール、メディアリテラシー」

②２学年：「大切な命を育む」

③３学年：人権教育（人権ビデオと講話）

【１学年】

【２学年】

【３学年】

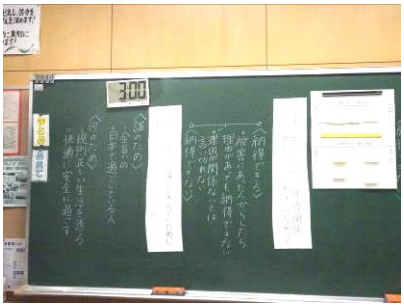
２．校内授業研究会

（１）授業学級：２年２組

（２）主題名「法やきまりの意義」

内容項目　Ｃ－(１０)　集団や社会との関わりに関すること（遵法精神、公徳心）

（３）資料名「違反摘発」（出典『とびだそう未来へ　中学道徳２』教育出版）



３．校内研究研修会

（１）演題：「生徒が主体的に参加する道徳科の授業づくり」

～教材の見方・考え方、発問の工夫、

議論を深めるためのコーディネート等について～

（２）講師：日本弘道会参与・道徳教育研究サークル

「道徳のチカラ」代表　佐藤　幸司　氏